

錦秋

きんしゅう



紅葉に彩られた秋のことを「錦秋」と言います。「錦」は様々な色糸を使って模様を織り出した織物、華麗・豪華なものは錦に例えられてきました。その代表が、秋の紅葉。秋の山は「山粧う」と形容されますが、山だけではありません。至るところに「錦秋」の装いが見られます*
夕焼けに染まるねぎ畑も、農人たちが見れる錦秋。あゝという間ですが、とてもキレイです。

早くも、この時期、
作業が終わらない時は
暗くなって定植したり
収穫作業を行ったり、
安全にも気を付けながら
作業に当たっています。

暑い夏から朝晩の冷え込みが感じられる程になり、日中働きやすい一方で、体調管理が難しい時期でもあります。仕事が終わったあとは、食事と睡眠をしっかり取るように心がけて、日々良い仕事ができるようにしています。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

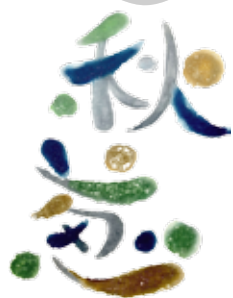
ことねぎだより

NO.150

2019年11月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社



今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

夏の季節と台風と一緒に乗り越えた秋葱のお届け

10月までは、美山がメイン圃場でしたが、今月からは市内・亀岡で育ったねぎをお届けします。梅雨明けの6月末から7月初旬の初夏にかけて定植したねぎで、夏場の暑い時期を耐え抜いて、無事生育してくれました。9月頃から虫害被害が多く出る時期があったり、台風という試練もありましたが耐え凌ぎ、こうして収穫できること、お届けできることを嬉しく思います。秋葱の季節もあと少し。一緒に苦勞を乗り越えてくれた秋葱、ご賞味ください。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

冬に向けての定植作業

ねぎにとっては生育適温の時期になってきました。冬ねぎ用の定植は暑かった夏と比べて農人にとっても良い気温なのでサクサクと進みます。夏の間、足腰の忍耐力もついたと感じます。生育をより促せるように、追肥を重点的に行い、立派な冬ねぎに育つように栽培を行っています。この日はとても天候がどんより秋の曇り空



少しひんやりした朝の空気と
淡い空の色がキレイです*

遅くなる、若手農人たち

京都の蒸し暑い夏、夏の終わりとともに避けては通れない台風。台風が過ぎたとちょっとほっとしたところにまた台風…と、息抜きもままならず乗り越えないといけない試練。特に、日々伸びゆく畑のねぎが台風で倒れてしまった光景を見るのは心が辛くなります。しかし、その辛い時期を乗り越えたおかげで、毎日共にする農人仲間の団結力も増してきました。また、新たなステップとして、これまで先輩がやっていた一日の段取りや仕切りも任せてもらうようになったり。ねぎの成長も楽しみですが、農人たちの成長も楽しみです。これからの期待が膨らみます！

畑で感じる秋の空、
秋の空気、
ちょっと冷たく感じる風が
とても気持ちいです。

